

『佐倉市長賞』

未来のために

佐倉市立臼井南中学校 三年 佐藤 妃莉

「『税金』と聞いて何を思い浮かべますか」この質問を投げかけられた私は、漠然としたイメージしか思い浮かばなかつた。身近にあるからこそ自分でわかっていると思っていたものが、こんなにも複雑で私たちを支えてくれているということに私は驚いた。

私たちは税金を払っている。それに対してもマイナスなイメージを持つ人は多いだろう。その税金はどのように使われているのか、そして税金がなくなつたら本当に私たちにとつてプラスなことが多いのか、様々な意見を見聞きする度に私は疑問を抱いた。

そこで私は、まずどのようなどころで税金が使われているのか調べてみた。もし税金がなくなつてしまつたら…そこに書かれていたものはどれも私に衝撃を与えた。救急車やごみ収集、交番の有料化、医療費の金額自己負担など様々なサービスが私たちにとつて身近ではなくなつてしまうことを知つた。これらのサービスは私たちにとつてどれも必須なものだ。よつて税金がなくなつてしまつたら私たちの生活は円滑に回らなくなつてしまうことを実感した。

これまで私は、税金は大人が当たり前のように払っているもので自分には関係ないと思つていた。しかし、調べてみるとそれが間違いであつたことに気がついた。今はまだ直接税金を払う立場ではないけれど、学校で勉強ができることも、道路が整備されていて安全に登下校できることも、災害時に避難所が用意されることも、すべて税金によつて支えられているのだ。私の生活も税金と深く関わっていた。

私は今まで「税金＝お金を取りられるもの」という、プラスな一面を持つ反面このようなマイナスな印象も持つていた。しかし、それは一面にすぎない。むしろみんなが安心して暮らせる社会を保つために必要なお金なのだと思うようになった。誰かが困つている時に手を差し伸べるための仕組み、それが税金なのだと感じた。また、税金の使い道について正しく知ることはとても大切だと感じた。ニュースやインターネットでは「税金の無駄遣い」といった言葉をよく見かけるが、そうした一部の情報だけで判断せず、私たち一人ひとりが税金に関心を持ち、どのように使われているのかを自分の目で確かめることが必要だと思う。税金の使い方について知ることができれば「もっとこうしてほしい」という意見を持つたり、将来の社会のあり方を自分なりに考えたりすることもできるはずだ。

将来、自分が納税者になる時のために今のうちから税金について学んでおくことは大切だと思う。税金がどのように社会を支えているのかを理解していれば、よりよく向き合えるだろう。私はこれからも税金について学び続け、「支え合うための仕組み」として前向きに捉えたい。そして自分が納める税金が未来へと繋がることを心から願つてゐる。